

7月8日(日)

時間 10:00~16:00

会場 大阪歯科大学 天満橋学舎

## 安心・安全な インプラント治療を 実践するために

**対象** 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士・学生 ~治療計画の立案から生体材料の選択、手術手技までの知識をアップデートしませんか~

**研修費** 歯科医師(会員)7,000円、歯科医師(会員5年未満)3,000円  
 歯科医師(会費未納者、他大学)17,000円  
 歯科衛生士・歯科技工士3,000円、学生無料



### 寺本 昌司

寺本デンタルクリニック(大阪市開業)

#### [略歴]

1987年 大阪歯科大学卒業  
 1897年 大阪歯科大学口腔外科学第1講座入局  
 1994年 大阪歯科大学大学院歯学研究科(口腔外科学専攻)修了  
 1994年 大阪歯科大学口腔外科学第1講座講師(非常勤)  
 1996年 寺本歯科医院(京都市)勤務  
 2003年 BIOMET 3i インプラントメンター  
 2005年 寺本デンタルクリニック開設  
 2006年 行岡医学技術専門学校看護科講師  
 2009年 K.I.S.S.(Kansai Implant Study Society) 設立  
 2011年 OJ(Osseointegration Study Club of Japan) 理事

インプラント治療は、欠損補綴の1オプションとしてその有効性が広く認知されるようになった。特に1990年代の後半からは、周囲の硬軟組織に対する付加手術の併用に伴い、インプラント治療はめざましい勢いで発展している。さらに近年CAD/CAM技術の発展と様々な歯科用マテリアルの進化により、上部構造の技工術式も劇的に変化し、現在では診査・診断、治療計画の立案から最終補綴物の作製に至るまで、デジタルテクノロジーを駆使することが可能となった。その反面、インプラント治療におけるトラブルも頻発するようになり、マスコミはこぞってインプラント治療のネガティブキャンペーンを実施するようにもなってきた。これらの結果、患者の知識や要求は高度になり、今日のインプラント治療には機能の回復や清掃性のみならず、周囲組織と調和のとれた審美的な治療結果とその永続性が要求されるようになった。

このような背景のなかで、患者と術者が共に安心して治療に臨み、安全に治療を完遂できるインプラント治療を実践するためにはどのような戦略や戦術が必要なのだろうか?本講演では、術者のラーニングステージを考慮に入れた治療計画の立案について解説し、使用する生体材料の選択基準について考察を加える。また、インプラント体の埋入や骨造成における外科手技について、動画やデモを用いて解説してみたい。さらに、トラブル時のレスキューについて、自身のトラブル症例も交えて供覧し、考察を加える予定である。